

2023年8月会山行 楽古岳 沢班 山行記録『死闘の末に…』

日程：2023／8／19(土)・20(日) 天気：曇り 参加者：沢班 6名

コース：登り→コイボクシュメナシュンベツ川 下り→夏道

19日

12時に会倉庫前集合。天気予報では夜に雨が降る予報。

川が増水していれば沢班は尾根に変更とのこと。しかし私の気持ちは沢一択！

会長が見送りに出てきて下さり、軽くご挨拶いただいた後 楽古山荘目指してしゅっぱー！

途中、何度かトイレ休憩し、天馬街道手前のコンビニで買い出し。この時点では予報に反して晴れ！天馬街道から楽古山荘への林道に入る。途中枝道が何本もあり迷いそうになるが16時過ぎに無事到着。きれいな楽古山荘～と思っていたのに、床は砂埃・虫の死骸、トイレにいたっては酷い有様で、s山さんo田さんa藤さんが見違えるようにきれいにお掃除して下さい、このお三方のお陰でその後私たちは気持ちよく使うことができたのでした。本当に感謝です。



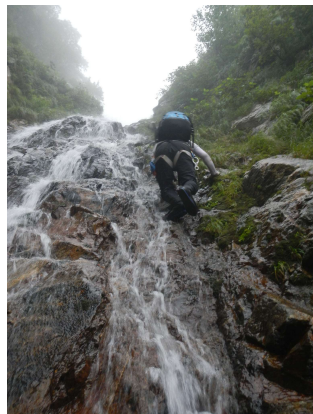
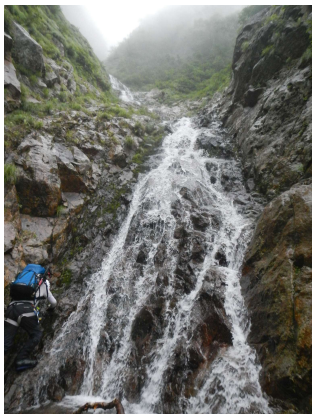
17時過ぎ夕食、19時半には就寝。が、早すぎて眠れず、おまけに暑い。

21時半頃頃、一台の車が停まり、男性3名が恐縮して小屋に入ってきました。その方達は翌日夏道で行くとのこと。尾根班の女性6名は今回の楽古岳が初めてだったため心強く感じました。

翌20日

3時班起床。朝食を済ませ準備をする。我々沢班は5時出発予定ですが、現地集合組が来ない…。u山さん！ 15分待っても来なければ残念ながらu山さんは尾根班にまわってもらうとのリーダー判断が下る。ドキドキしながら待っていると5分前に到着。林道の入口が暗くて見逃してしまい、かなりロスしてしまったとのこと。とにかく間に合って良かったー！

5時10分、尾根班を残し沢班が先に出発。しばらくはいたってシンプルな沢歩きが続いていますが、いきなり難易度が高い釜のへつり現る。滝壺はとても深そう。心の準備が出来ていなかったのが少々焦りましたが、無事通過。以降、今まで経験したことのない高度感のある滝の連続にさすが



日高の沢だな～。

序盤はかなり早いペースに感じ、ついて行くのも必死でしたが、これじゃあ予定の時刻よりも早く山頂に着いてしまうね、なんて この頃はまだまだ余裕で、ほとんどロープを使うことなく楽しく登っていたのですが、、

一箇所滑りやすい滝があり、先行していたaさんの手がかりとしていた岩が剥がれて、そこから

3m? 5m? aさんが我々の目の前で滑落したのです！！ aさんの落ちた衝撃とそれを目の当たりにした私達の精神的衝撃もすごかったのですが、ヘルメットとザックのお陰で、なんとaさんは奇跡的にかすり傷程度で事なきを得たのでした。(後日、念のため病院へ行ったそうですがなんとも無

かったそうで本当に良かったです。)

その後はロープを出して一人ひとり登り、難所はクリア。しかし、登っても登っても滝が現れ、もうお腹いっぱい。次第にガスが掛かり、寒くなってきて気持ちにも余裕が無くなってきましたがなんとか力をふり絞ります。



そして、最後はそのドラム缶を見るんだ！と期待に胸を膨らませてきたのに、まさかのルート間違い。楽古の沢に来て、あのドラム缶が見れないなんて、、、ガーン。

沢が終わってもルートが違うので、今度は灌木の藪漕ぎ地獄が待っていました。

ハイマツやナナカマドの枝を掻き分け掻き分け、登っても登っても一向に辿り着けません。



そして、ようやく正規のルートに出ることができ 11時50分に登頂ー！

尾根班より先に登って待っている予定が、尾根班は我々よりも1時間以上も前に登って先に下山を開始していました。

死闘の先に辿り着いた山頂には 尾根班の置き手紙と 真っ白な景色と そして、辺り一面のおびただしい数の虫・虫・虫！

看板も草の色も変わる程の異常発生 of ジュン

サイハムシのかたまりに恐怖し、一目散に下山。

しかし下山も一筋縄には行かず、沢靴での長い急な下りに苦戦。さすがは日高の山。



熊フンも2箇所ありました。

尾根が終わっても地味に長く、まだかまだかと歩いていると遠くから笛の音が！尾根班の笛の音でした。

15時25分に楽古山荘着。

久しぶりの10時間超えの山行でした。

色々ありましたが、今回も大変貴重な経験をさせていただくことができました。今回一緒に

登って下さったメンバーとリーダーに心から感謝いたします。

また、楽古岳が初めての女性だけのメンバーでこの日高の山のあの急登をコースタイムとほぼ同じタイムで登った尾根班も素晴らしいな、と思いました。またみんなで日高の山に登りましょうね！ 記録 u田

